

2016 年 10 月 26 日

報道関係各位

ソーラーフロンティア株式会社

国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）が国富工場で研修を実施

アジア・アフリカ・中東など 10 か国から政府職員の研修員を受け入れ
統計作成にも通じる高度な生産体制を現場で体感

【東京—2016 年 10 月 26 日】—ソーラーフロンティア株式会社（代表取締役社長：平野敦彦、本社：東京都港区台場 2-3-2、以下：ソーラーフロンティア）は 10 月 20 日、世界最大級の CIS 薄膜太陽電池工場である国富工場（宮崎県）において、国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）^{*1}の現地研修を受け入れましたのでお知らせいたします。アジア各国をはじめアフリカ・中東などの 10 カ国から 1 名ずつが参加し、研修所・宮崎県庁関係者を含め総勢 17 名の現地研修となりました。

国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）は、開発途上国の政府統計職員を養成する国連の専門機関で、国際協力機構（JICA）と共同で、「ポスト 2015 開発目標のモニタリングに係る統計の作成能力の向上コース」を 8 月から 12 月の 4 か月にわたり実施しています。この研修の一環として、研修員は、日本政府の統計組織のほか、地方自治体の統計部局を訪問し、データ収集や統計の作成、地方における統計調査業務について学びます。加えて、地域を代表する企業の現場を訪問する機会も設けられており、宮崎県での企業訪問先として、ソーラーフロンティアの国富工場が選ばれました。これは、国や県の進める再生可能エネルギーの拡大に対して、太陽光発電の普及を通して貢献する企業として評価されたものと考えます。

国富工場では製造ラインの殆どが自動化されており、常にきめ細かくモニタリングされています。見学後、一行を代表してエジプトから参加した研修員は、「ソーラーフロンティアの高度な技術を目にし、とても感動しました。製品検査のためのサンプル抽出工程も含め、興味深く、忘れられない体験になりました。」と感想を述べられました。

国連の「持続可能な開発目標^{*2}」の中では、環境の持続可能性の確保が主要な柱の一つとして掲げられており、ソーラーフロンティアでは、その実現において、太陽光発電の果たす役割は大きいと考えています。来月にモロッコで行われる第 22 回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP22）や、パリ協定（COP21）の発効を控え、世界的な気候変動への取り組みが一層注目されています。ソーラーフロンティアは、CIS 薄膜太陽電池を世界各地にお届けすることで、地球温暖化対策に貢献してまいります。

以上



*1. 国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）

開発途上国の政府統計職員を養成する国連の専門機関（千葉市）です。1970年に研修所が日本政府の招聘により東京に設立されて以来、アジア太平洋諸国だけでなく、アフリカや中南米、さらにヨーロッパを含めた全世界 133 カ国の 15,000 人を超える政府職員に対して統計研修を行ってきました。

詳細は、http://www.unic.or.jp/info/un_agencies_japan/siap/をご覧ください。

*2. 持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）

持続可能な開発目標は、開発分野における国際社会共通の目標です。2015年9月に国連サミットで採択され、先進国を含む国際社会全体の開発目標として、17のゴールとその下位目標である 169 のターゲットが掲げられています。

詳細は、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.htmlをご覧ください。

【ソーラーフロンティア株式会社について】

ソーラーフロンティア株式会社は、昭和シェル石油株式会社（5002, T）の 100%子会社で、世界最大の CIS 薄膜太陽電池のソリューション企業です。当社が生産・販売する CIS 薄膜太陽電池は、実際の設置環境における経済性および環境特性の高さが特徴で、これまでに住宅用・産業用の両面において革新的かつプロフェッショナルなソリューションをご提供してきました。ソーラーフロンティアは、太陽による快適でクリーンな暮らしをすべての人にお届けします。企業情報や最新ニュースの詳細は、当社公式のホームページ、Facebook、Twitter をご覧ください。

報道関係からの問い合わせ先:

ソーラーフロンティア株式会社 コーポレートコミュニケーション部
吉田・八宮 TEL: 03-5531-5792